

## 会議録

- 1 会議の名称 令和5年度 第1回湖西市地域福祉（活動）計画策定委員会
- 2 会議日時 令和6年1月30日（火）11時35分～12時20分
- 3 開催場所 湖西市中央図書館 視聴覚室
- 4 出席者
  - (1) 委員 井川あい子委員、原田幸男委員、板倉福男委員、佐原伊佐男委員、吉塚敬一委員  
菅沼敦子委員、彦坂克己委員、河田宗康委員、山下美恵子委員、末吉由佳委員  
袴田晃市委員、長田裕二委員、野原千鶴委員、阿部祐城委員  
  
(欠席者) 菅沼武彦委員、杉田洋一委員
  - (2) 事務局 湖西市：地域福祉課 課長 松山智次郎、主任主査 梅田紗也子、副主任 徳田早紀子  
社会福祉協議会：会長 森宣雄、事務局長 吉原博明、係長 川西啓介
- 5 次第
  - (1) 開会
  - (2) 委員長あいさつ
  - (3) 配布資料確認、令和5年度重点施策の計画及び進捗状況説明
  - (4) 委員意見・感想発表及び質疑応答
  - (5) アドバイザー講評
  - (6) 次年度の予定について
  - (7) 閉会
- 6 会議配布資料
  - (1) 次第/名簿
  - (2) 資料1
  - (3) 第4次湖西市地域福祉計画第5次湖西市地域福祉活動計画概要版（抜粋）

## 7 会議の内容

### (1) 開会

#### (事務局)

最初に報告となりますが、栗田先生にはアドバイザーということで参加をお願いしております。それから、傍聴の方が3名ほど見えていますので、報告をいたします。それでは、委員長の井川様に開会のご挨拶をお願いします。

### (2) 委員長あいさつ

#### (井川委員長)

改めまして、こんにちは。貴重なご講義をいただいた後で、皆様お疲れだと思いますが、いろんなアドバイスをよろしくお願ひいたします。それでは始めさせていただきます。

#### (事務局)

本日は、昨年度委員の皆様方にご意見を頂戴して策定いたしました第4次湖西市地域福祉計画・第5次湖西市地域福祉活動計画の2つの重点政策について、令和5年度の実施計画と進捗状況の説明をさせていただきます。それでは司会進行を議長にお願ひいたします。

### (3) 配布資料確認・令和5年度重点施策の計画及び進捗状況説明

#### (井川委員長)

それでは資料3の配付資料の確認、令和5年度重点施策の計画および進捗状況の説明を続けてお願ひいたします。

#### (事務局)

配付資料確認

#### (事務局)

資料1と書かれております令和5年度重点政策の計画および進捗状況報告（湖西市）の資料をご覧ください。地域福祉計画・地域福祉活動計画の中に2つございます重点政策のうち、包括的な相談支援体制の整備という1つ目の重点政策についてご報告を申し上げます。

重点施策に関する複数の事業のうち、「No. 37 関係機関や専門的な知識を持つ主体と連携し、地域における多種多様な課題に対応できる相談体制を構築します。」「No. 39 1人1人のニーズに合った支援をするため、アセスメント力の向上を図ります。」について、報告をいたします。

年度当初に立てました令和5年度の実施計画といたしまして、「アセスメント力の重要性に関する研修を1回開催する。」「年1回重層的支援体制整備事業について、各分野で共有する。」というものを目標として掲げております。

令和5年度の進捗状況です。8月に静岡県主催の包括的相談支援体制構築事業人材養成研修カリキュラムがウェブで開催されました。昨年度も開催されたのですが、その際には、私ども地域福祉課の職員のみが授業を受講しておりました。今年度は、地域福祉課長名で関係機関および市内の関係課に受講を要請しております。社会福祉協議会さんにも受講を依頼しました。内容は、本日おいでくださいました土屋先生の全方位型アセスメントの理解、事例検討会の具体的な進行、事例検討に関するもので、市職員が26名、社会福祉協議会が15名受講しております。

10月には、先ほど栗田先生が報告をしてくださりました包括的な相談支援体制の整備に関する意見交換会を開催しました。市役所の福祉部局の係長級職員が参加し、相談支援を行う中でも、困難事例、課題、外部機関と連携した事例、連携するために必要なこと、現状を改善するために必要なことについて意見交換をしました。

この中では、ガン患者さんで、高齢者ではなく末期でもないため、どのサービスも受けることができない方の支援をどうするか、自殺願望のある方の継続した相談対応をどの課が受けるのか、周りの方の関わりを嫌っているけれども、遠方に住むご家族としては心配なので見守りを継続してほしいというケースについて、どの

ような支援が可能なのか、など、湖西市の中でも制度の狭間で支援が行き届いていないケースがあるということを確認できました。

意見交換会のなかでは、保健師の人材育成、長期的にどのように育成していくのかを考えていかなければならない、というような発言もございました。1つの分野を長年担当しますと、その分野のプロフェッショナルにはなりますが、分野を越えた相談があった際に、こういった支援ができますよということに気付きにくいいため、高齢者、障がい者、子ども、様々な分野の経験を計画的に積んでいくということを、今後考えていく必要があるのではないかというような意見が発表されました。

1月、こちらが本日行いました。包括的相談支援体制構築に向けた研修会でございます。地域包括支援センターや障害者相談支援事業所、社会福祉協議会をはじめ行政も参加いたしまして、多くの方が、この件について、関心を持っていらっしゃる、何とかしないといけないと感じていらっしゃるということを確認することができました。

2月には全方位型アセスメント模擬検討会、先ほどの研修の終わりにもご案内しましたが、土屋様と栗田様をお招きしまして、職員のアセスメント力の向上のための研修会を開催いたします。

資料の一番下、令和6年度以降の計画です。こちらはまだ予定ではございますけれども、湖西市に合った相談体制、総合相談窓口の設置方法について、先行自治体の事例、こちらにも失敗も工夫も含めてなんですけれども、こちらから学びながら、行政および関係機関で検討してまいりたいと考えております。「重層的支援体制事業を検討することになった人に向けたガイドブック」によると、無計画に総合相談窓口を設置すると、落とし穴がある、先ほど先生が仰ったのですけれども、相談窓口を一本化すると、そこにあらゆる相談が寄せられてしまって、担当職員が疲弊して、実際対応すべき複雑・複合化したケースに手が回らなくなってしまう可能性がある。また、元々各分野で相談を対応していた職員の対応力は低下してしまっていくというということが書かれておりますので、小規模自治体である湖西市に合った相談支援の体制はどのような体制なのかをじっくり検討して、今後作り上げていきたいと考えております。地域福祉課からの報告は以上です。

#### (事務局)

引き続きまして湖西市社会福祉協議会総務係です。第5次地域福祉活動計画の令和5年度、社会福祉協議会の重点施策の計画および進捗状況につきまして、主だった事業の報告をさせていただきます。

まず1番目、地域づくりに向けた支援という枠の中で、①多様な居場所作りについてでございます。主な事業といたしましては、ふれあい・いきいきサロンを41地区で開催しております。健康体操教室を31会場で開催しております。健康体操教室のリーダーの養成講座、リーダーのスキルアップ研修を行っております。今年度の進捗状況は、健康体操リーダー養成講座を13名、リーダースキルアップ研修を67名が受講をしております。

続きまして、居場所の開設支援でございます。現在湖西市内で21ヶ所の居場所がございます。今年度、新所原にあるぶらっとカフェ、梅田の日向カフェ2ヶ所が開設いたしました。目標値として、2027年5ヶ所という形になっております。今後とも居場所支援を行ってまいります。

2番目は、地区社協活動の活性化でございます。地区社会協議会の活動支援ということで、地区社協が20地区ございます。地区社協で広報紙、地区社協だよりというものを発行しております。地区社協の会長さんを集めまして、今年度、2回会長会議を行っております。情報交換や各取り組み等を共有しております。今年度もう1回開催し、合計3回を予定しております。地区社協だよりの発行というところで、4地区で独自の地区社協だよりを発行しております。

3番目、関係機関関係団体の連携でございます。生活支援体制整備事業の第2層協議体を社会福祉協議会が受託しております。その中で支え合い推進会議を行っております。現在、社会福祉協議会で、生活支援コーディネーターを5つの各中学校区に1名配置をしております。支え合い推進会議を17回開催しております。

続きまして市内の社会福祉法人等連携の会です。今年度、現在計画をしており、年度内に開催をする予定でございます。

4番目、ボランティア活動の活性化でございます。主な事業です。ボランティアの養成講座、ボランティアの情報発信を行っております。進捗状況ですけれども、わくわくチャレンジといいまして、小学校4年生以上を対象に、3つの講座を行っております。今年度、ポッチャ、子ども食堂、切手ボランティア、そういったところの講座を開催しております。災害ボランティア養成講座は14名が参加をしております。2027年度の目標値は40名ということになっておりますので、今後も、目標に向けて取り組んでまいりたいと思っております。ボランティアネットワークだよりも発行をしております。

5番目、福祉に関わる担い手の育成でございます。主な事業ですボランティア体験講座、サロンボランティアの講座です。中学生を対象に夏休みの福祉体験・ボランティア体験、ちょこっとボランティアというものを社会福祉協議会で行っております。今年度183名の方が参加をしております。サロンのボランティアの講座16名、ボランティアの登録者数が今年度、1311名になっております。こちらの目標値は2027年度1500人とい

うところで、目標に向けて活動をしていきたいというふうに思っております。特にシニア世代の養成というところも、今後力を入れていきたいなというふうに思っております。

6番目、生活支援サービスの充実です。地域の高齢者に対する買い物支援ということで、移動スーパー等の連携をというところで、「とくし丸」さんや、今年度、遠鉄の移動スーパーさんと連携をしております。

最後、地域助け合い支援事業ちいーとサポートですね、これは令和4年度から新たな事業を開始いたしました。住民参加型の支え合いの事業です。「受け手」利用者さんが84名、「支え手」実際支援する方が58名ということで、活動を行っております。こちら2027年度、「支え手」が60名という目標がございます。現在58名ですけども、もっとですね、「受け手」「支え手」の方を増やしていきたいなというふうに思っております。簡単ですが、以上で説明を終わります。ありがとうございました。

#### (4) 委員意見・感想発表及び質疑応答

(井川委員長)

それではここまでの説明について、委員の皆様からご意見や感想を伺います。先ほどの研修に関するご感想でも結構です。

(原田委員)

私なりに気づきを申し上げさせていただきたいと思います。非常に計画そのものは、地域を反映した、充実した内容になっているというように、前回は申し上げておりますが、それをいかに地域に根付かせるか、地域でいかに実施できるかということが一番大きな大切なことだと思います。それに関連しましてですね、ちょっと申し上げたいんですが、今社協さんの方から、それぞれのふれあいとか、健康体操のリーダーの研修等は行っていただいておりますよ。実際に主催をするということになると、地域の自治会関係が中心にならざるを得ないということになっていると思います。実際、このふれあい・いきいきサロンとか健康体操に参加される方が、スタートの頃からもうどんどん減っちゃって、今現在、言ってみれば、なんとなく息をつないでいるかな、中にはもう出席ができなくなってきてしまって、開催すらできなくなっているというようなことで、リーダーの養成も大切でしょうけれども、もっと参加して、こういう福祉が充実できるんですよっていうものが、自治会、第二層協議体、地区福祉協議会というものの、もっと積極的にですね、地域で実際に、活動をしていただくような形を持っていかないと、いくら立派な計画・目標を作っても、なかなか、地域での充実した福祉にはなっていないというように私は思います。そこら辺をもう少し考えていただいて、自分たちもできることをやっていかんといかんというふうに思います。

(佐原委員)

重点施策の件ですけど、今の地域福祉課の現状で、やる方向に行っているのか、これから検討するのか、今の体制だと、なかなか専門職とか、どっちみち窓口は地域福祉課が音頭とってまとめるような形になると思うんですけど。今の体制で、できる体制なのか、これから検討すればできそうなのか、その辺ちょっと、聞きたい。

(事務局)

栗田先生にいろいろ相談に乗っていただいて、地域福祉課の問題だらけのところを、3係総動員で処理をしている形になります。今現在問題となっているのが、過去の過ちそれから、新たに毎日毎日出てくるような問題の対処という形ですが、包括的な相談支援体制、それから重層的支援体制整備事業の取り組みの重要性は、重々承知しておりますので、それはもう今年度から少しずつ、体制の構築に向けて係の方で進めている、今はそういった現状です。ですので、まずもうこれをとにかくやらなければ、また同じこと同じ轍を踏まないようにという形で今進めていますので、今しばらく、しっかりした形になるまでお待ちいただきたいと思います。

(山下委員)

先生方のお話を聞いて本当に大変な問題だと私も思っています。今、原田委員がおっしゃったように、健康体操教室とか、最初の頃は本当にすごくて大勢見えてくれたのですが、男の人の参加がないんですよね。大体、女の人ばかりで。楽しくはやっています。私は自分の部落と、源太山さんに行っています。源太山さんはもう本当にすごいにぎやかですよ。楽しく体操教室をやって帰ってきますけど、これからの問題、湖西市にあった地域社会作りというものを今から考えていただいて、より良いみんなが住みよいまちにしていけるように話し合いをしていただきたいと思います。

#### (菅沼委員)

土屋先生と栗田先生のお話を大変なるほどという思いで聞かせていただきました。いろんなところでお話されているのでしょう。ととても分かりやすく、今いろんな所で言われている「どの人も取りこぼさない」ということで湖西市がいち早くこの問題に取り組んでいるのではないかなということを感じました。ただ一つ、単純に思ったことは、そのような、どこからも支援をいただけないという人を何とかしなくちゃいけないってということで、より多くの人と共有して解決していこうというときに、個人の問題であるから、「できるだけいろんな人に知られたくない、秘密にしたい」という内容を、多くの人に知られてしまうという懸念を持たれる人もいるかなと。守秘義務というか、そういったことを徹底していただいて、それで困っている人が、いろんな方の支援によって生きやすい、人生を楽しく送れるようになっていこうというふうになっていける、その一つがこれであるということならば、本当に素晴らしいことだということ、今までの話を聞いて感じました。

#### (末吉委員)

先ほどの研修会で、重層的支援会議とか、とても良い未来が見えてくるような感じは受けたのですが、それをやるにあたって、人材の確保や行政の人員不足とか、いろいろ問題提起もあったと思うのですが、事例として、毎年1年開催して月2件解決したとかっていうのもあったのですが、湖西市は今、どのぐらいの必要性があって、どのぐらいの課題があって、それにあたってどういうふうやっていくのかは、もし明確にできれば、湖西市と同じ規模ぐらいの市町さんで、包括的な相談支援をやっている市町があればそれを参考にしていければ一番早く支援できるかなあというふうに率直に思いました。

健康体操とか社協の方の報告にもあったように、この健康体操とか、そういう活動をたくさん開催しているのを知ったのと、先ほどもあったように参加者数がとても少なくなってきたということを知って思ったことは、私は今趣味で二胡を習っているのですが、中国の楽器、それをいきいきサロンで、ボランティア演奏もあつたりするのですが、そういうときに歌詞カードを広げて一緒に歌ったりなんかしたのですが、だから健康に繋がるためには、健康体操とかそういうのだけではなくて、もう少し柔軟に考えて、いろんな団体と連携をとってそういう違う形で、もう少し活動を豊かになっていけたらなと思いました。私達のボランティア演奏は、来週また入出のはつらつセンターであつたりするので、例えば湖西市内のいろんな団体があるのですが、しっかり声かけたりなんかすれば、参加者が減つたりする、いろんな人いろんな好みがあるので、毎回行って同じ体操するってつまらないということもあると思うのですが、そういう活動の内容も柔軟的に考える必要があるかなというふうに感じました。

#### (河田委員)

重層的支援整備事業については、法から漏れた方を救い上げるようになっていくフレーズもあったのですが、結局そういう方達が具体的なサービスを必要としたときに、合うサービスがないとか、支援する場所がないみたいなことがありうるのかどうかっていうのが。特にひきこもりみたいな問題は、本当に歴史的な長い期間かけて醸成されたものなので、よりサービスが難しいのかなあと思つたりもするので、本当に支援もそういう相談の今の形も、私が相談したときも本当にすぐに動いてくださったり、すごく親身になってくださるっていうのは分かるのですが、そこに帰着そこに行きつくその先の、求める具体的なサービスみたいなものが、最終的にないみたいなことがあるのかなあというふうに感じました。

社協については、地区社協とかよく分かるのですが、やはりもうずっと昔からずっとそういうネーミングで、今、初めておっしゃった、地域の負担にもなっているのかいないのかみたいなところが、私もサロンで子どもたちと太鼓の演奏みたいな感じでいくのですが、やはり支え手も受けて手も、もう高齢化の高齢化の高齢化みたいなところもあるので、何か新しい風であつたりとか、組織みたいなものが、ずっとそのままいいのかなあ、ふと思つときは、あの関わらせていただいて感じるところはあります。

#### (板倉委員)

先ほどの研修のテーマに関連することです。いろんな支援制度があつて、そのどれにも入れないような隙間の人の支援、それをするための重層的な支援、それをしっかりと引き上げるという、まとめるための人的な力、コーディネーターを何としても早く育成していただくということがですね、福祉政策のなかでも肝じゃないかなあというふうに思います。先ほど進捗状況の中でいろんなアセスメントの理解だとか、教育をしっかりとされてるというふうにありましたけども、それを継続してやっていただいてですね、肝になる人材を育てていただきたいというふうに思いました。

(吉塚委員)

今日一番「あ〜」と思ったのは、栗田先生の資料の中にありました、「ここに残らなくてもいいよって場所だと感じます。」この言葉なるほどな、と思って見ました。

それはそれといたしまして、全ての困っていることを、行政ですとかそういうところに頼っていけば、行政はきっとパンクしてしまうのだらうなと思います。まず、個人であり、家庭であり、地域でありというもの、昔はそれが当たり前に行われてきたことができなくなってしまったこの社会っていうのも、問題なのかなと思いつつ聞いていました。

(彦坂委員)

私どもです、社会福祉資源である事業者の代表としてこちらに来させていただいています。今です、社会福祉資源、例えばうちで言うと特別養護老人ホームとかですね、いろんな例えばその障害者の就労支援事業所とかあると思いますけれども、施設の状況が、非常に各施設赤字の状況なんですね。このような状況の中で、窓口でいろいろに集約された意見を持ってこられても、赤字である事業体が、受け皿として受けることができるのか、それが一番の問題であって、大変今ですね、不健康な状態にあるというふうに感じております。この要因としましてはですね、国の施策である例えば最低賃金アップとか働き方改革とか、働く側にとっては非常に大切なことだと思いますけれども、我々受ける側としては、事業者としては、それがあることによって赤字になってしまう。ということはですね、その事業がなくなってしまう。なくなったら、いくら話し合いをしてですね、そこで預かってくださいと言われても、預かることができません。それが私は一番の問題だと思います。

また、多職種ということで今、人材の流出が、日本全国どこでもあると思います。湖西市でも工場が新しくできますけれども、社員が高い賃金で募集されています。私共の事業所には誰も来ません。ここ10年ですね、新規の採用はゼロです。そんな事業体の中で、我々がボランティア精神を持って職員にやれやれ言うしかない。こんな状況の中で、いくら市の方で上手いことをされても、受け皿がこういう状況だったら何もできないんですよ。今それが一番の問題。一つ皆さんご理解いただければと思います。

(井川委員長)

委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございます。栗田先生のご講義を聞きながら、昨日も実は一つ、民生委員さんからのご相談を受けました。もうそれを念頭に置きながら。これはこの部署とこの部署とこの部署、もう本当にそういう1つだけではなくて、皆さんのご協力をいただかないと解決できないね、最終的には社会福祉協議会の電話番号へご相談してみても。行政書士など、本当に多機関の皆さんのお力を借りないと解決できないような、そういう相談が増えてるなって日々感じています。本当に貴重な意見ありがとうございます。

## (5)アドバイザー講評

(井川委員長)

栗田先生からアドバイスをいただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

(栗田先生)

貴重なご意見や感想伺いましてありがとうございます。本当にちょっと切実なお話があって。やはり施設さんとしての経営というところでもある中で、他の自治体というか、あるところでやっている例なんですけれども。先ほど重層のお話の中で、合うサービスがないので、そういったときに、ひきこもりとかそういった方たちの行く先が、どういうところに行けるのか、繋ぎ先の話がありましたけれども、そこも課題だということで、調査の中では出ていたんですが、ある町の中で、元々は障害でやろうとしていた、障がい者をベースに事業を展開しようとしていたんですけども、そこの町の規模もとても小さくて、静岡県内のある町の事業所なんですけど、そこでは障がいの方と高齢者の方、認知症の方と、こども、こどもも重度医療をして人工呼吸器とかもつけている重症の子とか、学校帰りに放課後児童会みたいな元気な子も預かれたりとか、全部を一体的に取り組んでいる事業所がある。で、社協さんとも一緒に繋いでいったんですけど。

実は私は学生の実習でその事業所の方たちと出会ったのです。その事業者の方は、行政もいろんな問題があって苦慮してるから、このままだと、自分たち市民、住んでる人たちの行き場がなかったり、繋がれる場がないからということで、その事業者の方がそういった展開をされたようで。学生と一緒にそこに行ったんですが、実際に行ってみると、すごく雰囲気良くて。認知症の方を、知的障がいを持っている男の子が食事の配膳をして食事介助をしていたりだとか、重度の心身障がいを持たれてる方に精神疾患の方たちがお話をしていたりだとか、すごいそこで交流が生まれているんですね。先ほど土屋先生の話の中にもあったんですけど、そ

の町の資源とか、人材とか事情っていうのがそれぞれ違いますので、その町ならではのやり方でやっていかないと、やっぱり真似だとなかなか無理があるんだと思うんです。なのでそこを、そこっていうのが保健師でいうと地区診断とか地域を把握して、実際にどういう事業所はどういう課題があって、そしてどういうところが豊かでどういうところがちょっと足りなかったり苦しいところがあったりっていうことを明らかにする中で、その中でどういう展開ならば、ここならできるのかっていうことを考えていかないと、結局どこかが苦しくなってしまうのかなっていうふうに思うんですね。先行事例を真似しながら見ていくっていうのは大変重要なことですし、参考になるとは思うんですけど、ぴったり湖西市には当てはまらないと思うんですよ。

湖西市さんに関わらせていただいて、今年2年目になりますけど、湖西市さんの強みとしては、大企業があって、企業の方たちがすごくたくさんのお金を持っているっていうところがすごく強みなのかなっていうふうには思うんですね。企業の方たちも、力になれることはなりたいっていうことで、インタビューに伺ったときには言っていました。むしろ企業の中にも、やっぱり障がいとか、ひきこもりや介護者を抱えながら仕事をしている人たちも中にいるので、そういった部分では課題を抱えている。産業保健師さんたちも課題を抱えていたりしますので、皆さんと繋がりたいと企業の方も思っていると思うんです。なので、話し合いの場だったり、皆さんがこの感じる苦しみだったりっていうことを出し合いながらいろいろ折り合いをつけていき、進む方向性を決めていかれるのが一番いいんじゃないかなっていうふうに思います。

先ほどの重層のお金っていうのは、分野横断的に予算をつけられる仕組みを土屋先生がお話してくださっていたので、足りないところを上手に賢く使ってお金をもらうっていうのが一つの手なんです。軌道に乗るまでどうも大変かもしれませんが、それぞれの分野でちょっと調べながらコアな人たちだけでも、まずはいいと思いますので、話し合いをし、詰めていきながら、進んで一步一步やっていくといいのかなと思うんです。それには、実は事例から入ると、その必要なことが分かりやすかったりする。先ほど行政の保健師さんから上がった事例もありましたけど、あれは生の湖西市の事例だと思うんですよ。その事例をどこに繋がったのか、繋がらなかったか、そして何があったら良かったか、どのような人、人の動きもそうですけれども、その先の事業所もそう。そういったところを具体化して行って、その繋ぎ方を決めていけばそれがルールになると思うんです。で、それをおそらく次回の研修会で、土屋先生からさばき方っていう言い方されますけれども、事例の調整の仕方とかをね、教わることはできると思いますが、でもそれがなくても、手探りでも多分出し合っている。皆さんなら出し合っています。先生から聞いた中で皆さんの話を伺うと、それぞれがいろんな思いの中で今いらっしゃるっていうことがよく分かりましたので、その思いをぜひ、大事に活かして次に繋げていったらいいんじゃないかなっていうふうに思いました。

最後にちょっと私の資料で気になった「ここに残らなくてもいいよって場所だと感じる。」というフレーズですけど、これは湖西市で働く専門職の方がおっしゃったんですね、おそらく。でもその言葉を言いたくなってしまうっていうのは、すごくその社会福祉法人とか医療法人とかいろんな法人の方々が苦しい中で今働いているんですね。市の職員も苦しいんですけども、外の方たちも踏ん張っている。やっぱり仕組みがないと、自分たちのところの責任とか、忙しくて忙しくて先が見えないとか、そういったここに課題がいっぱいいろいろ書いてありますけど、こういう課題の中で毎日仕事をしていると、多分こういう言葉はポロッと出ちゃったのかなっていうふうには思うんです。なので、少し、何年かかるか、1年先か2年先かわかりませんが、ここにいて良かったなっていうふうに進めるようになるといいなっていうふうに思っております。最後は感想になってしまいましたけれども、以上です。

(井川委員長)

栗田先生、今日の皆様のご意見をまとめていただきありがとうございます。先生が今お話していただいたことを、自分の頭の中で整理して見ていただきたいなと思います。委員の皆様たち、本当にそれぞれの立場で、日々問題解決をしながら、何とか相談にみえた方の、良い生き方っていうのかな、それを考えてくださるんじゃないかなと本当に思いました。委員もすごい大変なことで切実に思いましたので、皆さんぜひこの場で学んだことを生かしていただきたいなと思います。

## (6) 次年度の予定について

(井川委員長)

次年度の予定についての説明をさせていただきます。

(事務局)

委員の皆様は令和6年2月9日までです。再任についてご快諾くださいました皆様におかれましては、令和6年度も引き続きよろしくお願いたします。令和6年度年に1回委員会を開催しまして、計画の進捗状況についてご報告をしまして、ご意見頂戴をする予定でございます。

## (7)閉会

(井川委員長)

今日は本当にありがとうございました。議事はこれで終了いたしましたので、司会を事務局にお願いしたいと思えます。

(事務局)

貴重なお時間と貴重なご意見ありがとうございました。国にすべからく習うのではなくて、湖西の独自のものを作り上げる、これもまたちょっと違うと。湖西のいろんな実情の中で考えて、それから湖西の中でできることっていうのを、少しずつ進めていかなければいけないなっていうふうに思いました。

また事業者さん、それから自治会の方、その他の方々にいろんなご協力をいただきながら教わりながら、こういった事業を進めてまいりますので、どうぞ今後もご支援いただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

湖西市社会福祉協議会森会長より、終了の挨拶を申し上げます。

(湖西市社会福祉協議会 会長)

委員の皆様、研修会から引き続いての委員会ということで、ご苦労様です。それから、本日、アドバイザーとしてご出席いただきました栗田先生本当にありがとうございました。

本日、皆様方からいただきましたご意見、感想、そしてアドバイス、こういったもの一度私ども持ち帰りまして、まだまだこの計画の推進には、取り組まなければならない施策がたくさんあります。まだまだ取り組みが甘いもの、取り組んでいないものもございませう。こういったものにですね、今後、反映していきたいと思っておりますので、今後ともご協力よろしくお願ひいたします。それでは本日の委員会を閉会といたします。どうもありがとうございました。